小児科医として、女性医師として

大阪府立母子保健総合医療センター
消化器・内分泌科　　惠谷　ゆり

大阪府立母子保健総合医療センター

小児のB型肝炎、C型肝炎が専門です

❖ 厚生労働省

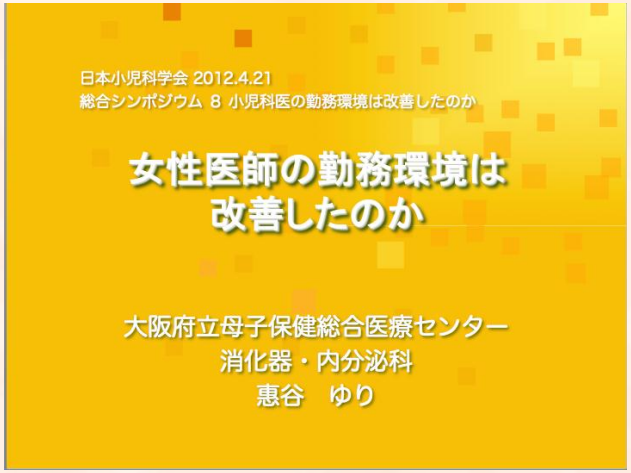
「集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班」（2011～2013年）

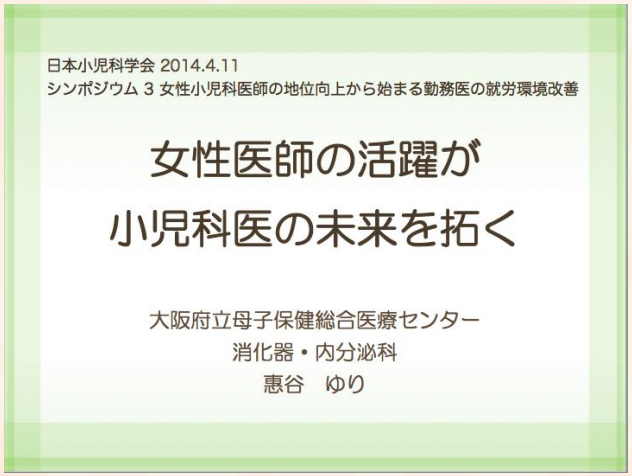
研究代表者　四柳　宏
（東京大学感染症内科）

作成　四柳　宏、惠谷ゆり、小松陽樹

協力　勝又すみれ、菊池真琴、中島夏樹

女性医師支援にも携わってきました
現在日本小児科学会男女共同参画委員会副委員長です





わたしのキャリア

平成元年

大阪市立大学医学部卒業 → 大阪大学医学部小児科入局 → 大阪府立病院小児科研修医 → 結婚

平成３年

- 結婚後のキャリアの具体的なイメージなし
- 特に出産について
  いつ産めばいいのか
  産休は取れるのか
  産休後のキャリアはどうなるのか

わたしのキャリア

ロールモデル
との出会い

平成3年 結婚 → 大阪府立母子保健総合医療センター → 平成4年 大阪大学医学部小児科 → 平成5年 長男出産

- ❖ グループチーフと教授に報告
→いずれも「良かったな」
- ❖ 無給医で産休の規定なし。半年後に復帰
- ❖ 実家の近くへ産休中に転居
通勤時間は片道2時間
- ❖ 保育園(私立)に恵まれた

わたしのキャリア

子育て支援会
開始

- 平成5年　長男出産
- 平成6年　大阪大学医学部小児科
- 平成9年　長女出産
- 平成10年　大阪府立母子保健総合医療センター　検査科病理
- 平成11年　大阪大学医学部小児科
- 平成12年　アラバマ大学バーミンガム校　免疫ワクチンセンター留学
- 平成14年　大阪大学医学部小児科　助教
- 平成19年　大阪府立急性期・総合医療センター小児科　副部長
- 平成21年　大阪府立母子保健総合医療センター　消化器・内分泌科　副部長
- 平成25年　大阪府立母子保健総合医療センター　消化器・内分泌科　部長

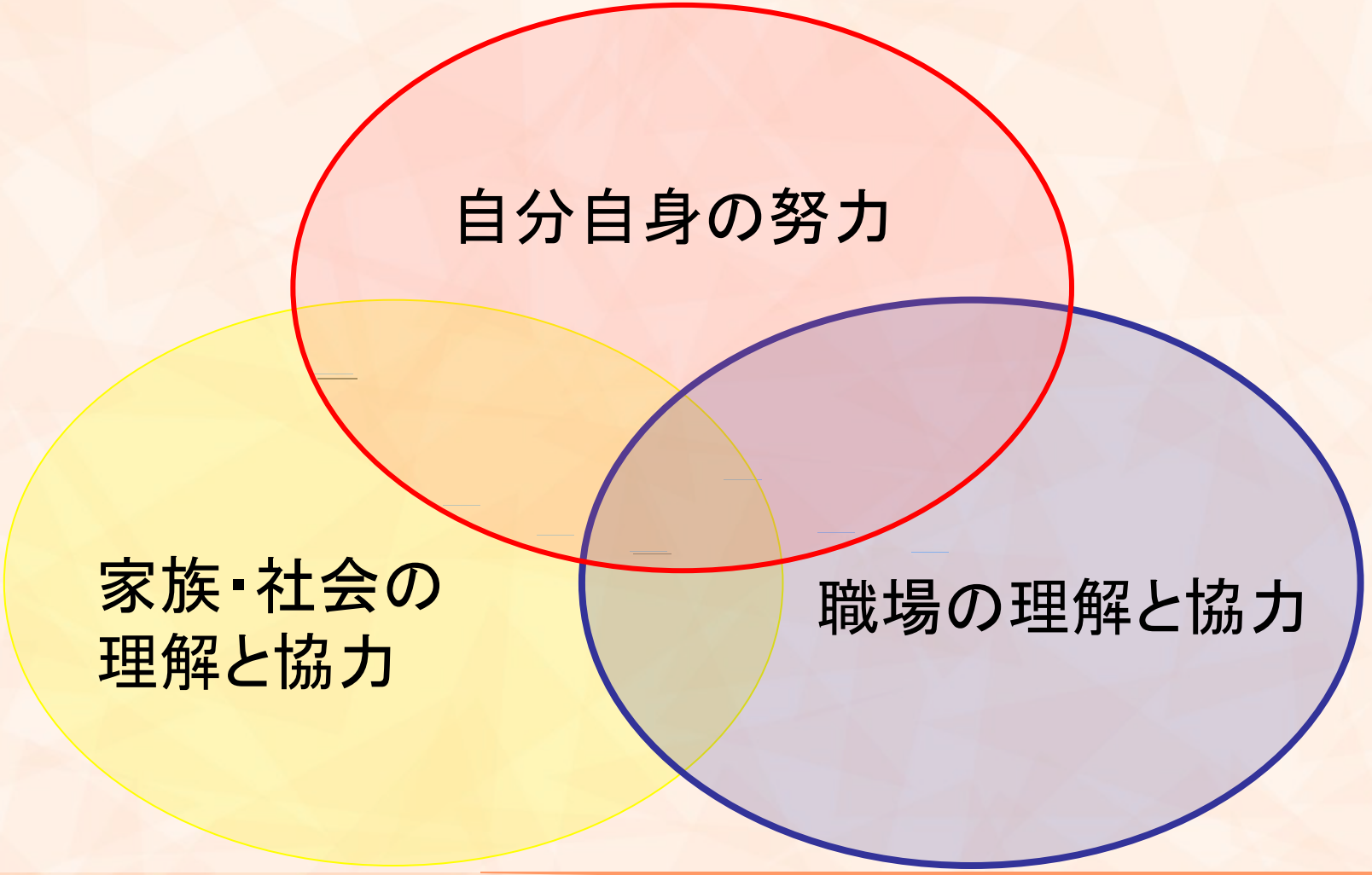
子育て支援会　WARAJIの会

- 普通の病院の小児科はスタッフ3-4人であり、周囲に子育て中の女性医師がいる確率は低い
- 同じ立場の医師が集まって、どのような工夫をしているか、悩みがあるかなどを話し合う場が必要なのではないか
- H8年から年に1回、15人～20人前後の女性医師が集まって情報交換を行う会を開催するようになった
- 当初は阪大系の女性医師だけを対象にしていたが、H17年からは男性医師や他の診療科、他大学の医師も参加するようになっている

子育てを経験した小児科医として

- 視野が拡がり、子ども通じた社会とのつながりができる
- 仕事も家事も効率よく、集中して行うことが当たり前になる
- 小児科医の場合は、子育て経験がそのまま仕事に生きる
- 子どもの存在のかけがえのなさを実感
- お母さんの気持ちを理解し、具体的で親身なアドバイスができる

女性医師が子育てとキャリアアップを両立するために



女性医師自身の努力

- ❖ 希望者の多い医学部に入学・卒業し、医師という職業を自ら選んだ以上、仕事を続けて社会に貢献する義務がある
- ❖ 産休・育休などの取得は権利ではあるが、周囲への配慮は必要
- ❖ 医師・妻・母としてすべて完璧を目指すことは難しく、ある程度の妥協が必要
- ❖ しかし医師として信頼に足るだけのスキルは維持しなくてはならない

  → 70点+ 70点+ 70点 = 210点を目指す
- ❖ 医師としてざっと40年は働ける。子育てのためペースを落とす期間は約10年。その後30年ローンで恩返しをすればよい

家族・社会の理解と協力

- 医師を伴侶とする以上、自分の妻としての役割だけでなく、医師としての社会的責務があるということを夫は理解し、支援する責任がある

  ↔ 自分に迷惑がかからない範囲でやって欲しいという男性が多い

- 保育園、学童保育、ベビーシッターなどの子育て支援機関の充実

  医師は高学歴職業であり自分の子どもの教育もおろそかにはしたくない

- 「3歳児神話」のような母親に子育ての責任を押しつける風潮を変える

- 家政婦、ヘルパーの普及

職場の理解と協力

- 常勤医（フルタイム）での勤務を続けることが、キャリアの継続および向上を図る上で重要である
  - 産休や育休の取得を可能にする　←医療機関の集約化、連携が必要
  - 時間外勤務（居残りや当直、オンコールなど）の軽減
  - 会議やカンファレンスをできるだけ時間内に行う
- 限られた時間や条件であっても、勤務に加われば、他の医師の業務軽減になる
- 外来だけのパート勤務か（10%医師）、当直・時間外も働きまくる常勤か（200%医師）、の両極端ではなく、50%や80%などさまざまな勤務形態を選択できるようにする
- 子育て中の女性医師支援だけを考えるのではなく、職場全体の労働条件を改善し、過重労働をなくしていくことが重要

女性医師のキャリアアップ

- ❖ 女性医師の離職防止、復職支援のみならず、より専門性を高め、高い役職や収入を得られるようなキャリア支援が必要

【女性医師自身は】

- ❖ 若いときから自分のキャリアデザインを考えておく
- ❖ 自ら積極的に発言し、発表する
- ❖ 自ら情報を得る、人に会う（ロールモデルも含めて）
- ❖ 与えられたチャンスは逃さない、譲らない
- ❖ できない理由を探すのではなく、どうやったらできるかを考える
- ❖ どうせやるなら笑顔で、楽しく

【上司は】

- ❖ 評価はせめて男性とフェアに行って欲しい
- ❖ どういう条件なら働けるのか、どのようなことをしたいのか、決めつけないで本人に確かめ、相談するようにして欲しい

まとめ

- 医師という職業は本当にやりがいのある素晴らしい仕事
- 医師として働くことができることの喜び、誇りを大切に
- 感謝の心を忘れずに
- 志は高く、チャンスは逃さない
- ベストを尽くす努力を継続する
- 医師として、女性として一度きりの人生を輝かせる